

文部科学省研究指定校の取組事例

平成30・令和元年度

文部科学省・熊本県教育委員会指定

人権教育研究指定校

熊本県立八代清流高等学校

研究の概要

1 学校の概要

本校は、「八代南高校」と「氷川高校」の伝統を受け継ぎ、新たに発展的に設立された県内初の進学重視型単位制普通科の高校である。平成24年度に開校し、令和元年度で8年目を迎える。95の科目設定により、生徒の興味や進路希望により幅広い科目選択が可能であり、さらに、総合的な学習の時間である「プロメ・プラン」やキャリアプランニング活動を通して、自己の在り方や生き方を考え、キャリア形成に関わる態度や総合的な力を身に付けることができる。生徒の持つ個性や能力に応じて、それらを最大限に生かし、伸ばす指導を個別に行いながら、多様な入試に対応することで生徒の夢が実現されている。

2 研究主題

「確かな学力の向上と豊かな人権感覚に基づいた進路保障」
～一人一人の思いを大切に～

3 調査研究のテーマを設定した背景

(1) 今日の課題から

平成8年の中央教育審議会答申（「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」）では、変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な力は、基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと自ら課題を見つけ自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」であると提言している。

この提言を踏まえた学習指導要領における「生きる力」の育成では、確かな学力、豊かな人間性、健やかな体の知・徳・体をバランス良く育むことが求められている。このことは、学校における人権教育で以下のような力や技能などを総合的にバランスよく培うことが求められていることと重なりが大きいと考える。

- ① 他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ちなどがわかるような想像力、共感的に理解する力
- ② 考えや気持ちを適切かつ豊かに表現し、また、的確に理解することができるような、伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力やそのための技能
- ③ 自分の要求を一方的に主張するのではなく建設的な手法により他の人との人間関係を調整する能力及び自他の要求を共に満たせる解決方法を見い出してそれを実現させる能力やそのための技能

(2) 本校の教育目標から

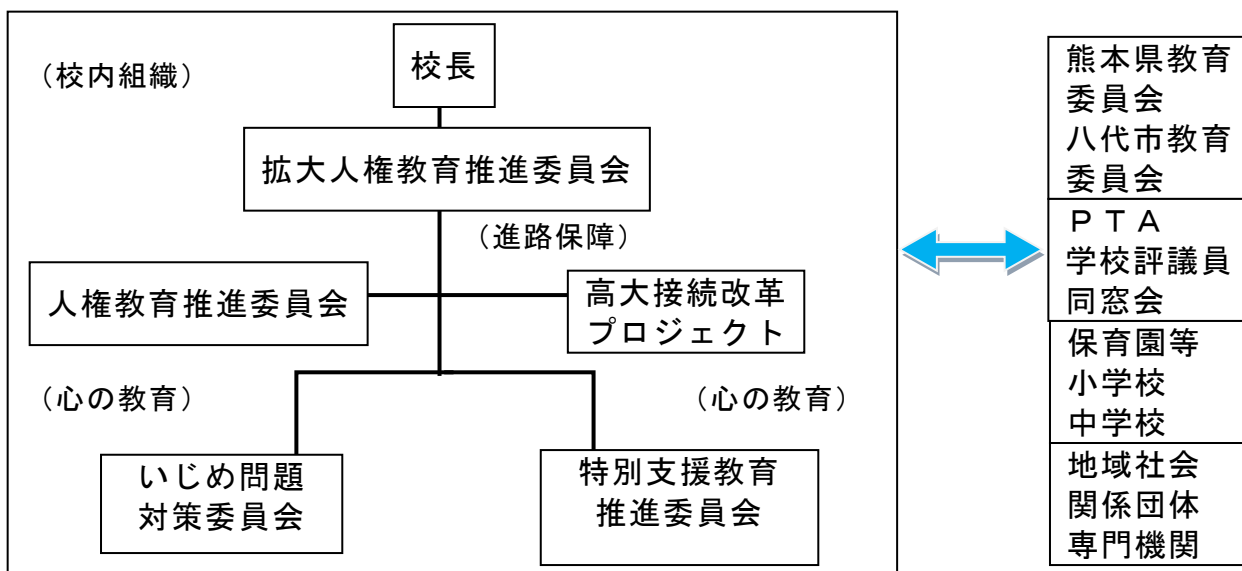
本校では、「自律」「進取」「錬磨」の三綱領のもと「徳・知・体」の調和のとれた全人教育を教育方針とし、目標として以下に掲げる生徒の育成を目指している。

- 豊かな人間性を持ち、「自律」した判断・行動ができる次代を担う人間
- 目標を高く掲げ、常に「進取」の気概をもって挑戦し、創造への意欲を燃やす人間
- 文武両道を目指し、心身を「錬磨」することにより、活力に満ちた逞しい人間

多様化が進む現代社会では、多くの価値観を尊重しながらも、確かな情報に基づいて一人一人の未来に対する思いを大切にしていかなければならない。教師が生徒との関係

を深めていくことで、生徒の思いを共有し、将来生きていく上で必要な「確かな学力の向上」を目指したい。また、社会の変化に主体的に対応できる能力を育成するためには、一人一人の能力・適性に応じた指導・支援として、「豊かな人権感覚に基づいた進路保障」が必要であると考え、テーマを設定した。

4 調査研究の推進体制



5 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容

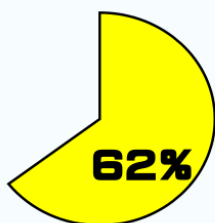
(現状の分析と課題)

本校は県内初の進学重視型単位制高校であり、自分の進路に合わせてカリキュラムを編成（授業を選択）していくシステムが特色の一つとなっている。

本校に入学してくる生徒の多くは素直で基本的な生活習慣もある程度確立しているが、様々な場面で受け身になることがあり、自ら課題を見つけ主体的に課題解決に取り組む態度が身に付いている生徒が多いとは言えない。このことは、具体的な人権問題に直面した際に、それを解決しようとする実践的な行動力などと結び付けることができるための課題であると考えている。

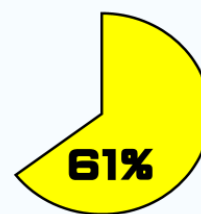
また、人権教育に対する関心が高い地域であり、学校全体として人権教育を進める素地は十分にあるが、限られた教職員が個別に対応している場面が多い状況にある。

自分には良いところがあるか？



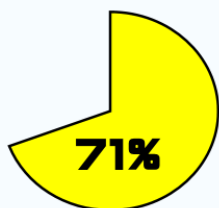
(平成30年7月実施)

本校の進学重視型単位制のシステムは進路目標達成に有効であると思うか？



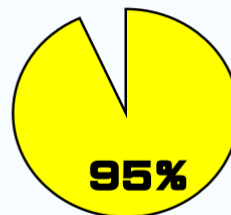
(平成30年7月実施)

自分は面談（個別面談・単位制面談）を通して自らの進路決定に対する意識が高まっているか？



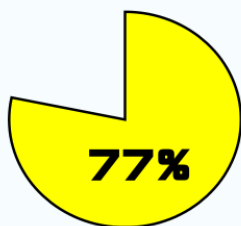
（平成30年7月実施）

困った人の気持ちが分かる人間になりたいか？



（平成30年7月実施）

本校は人権教育に配慮した授業が行われているか？



（平成30年7月実施）

（調査研究の内容）

ア 課題

進路実現に向けた「生きる力」を育成するために、生徒一人一人の希望や思いを大切にしながら、生徒と教師が一体となって教育活動に取り組む必要がある。（人権尊重の精神に立った学校づくり）

（ア）将来に対する自分自身の思いが、カリキュラムに強く反映するため、前年度の科目登録の時点から、将来の進路選択を念頭においた科目を選択する必要がある。

そのため、担任面談、単位制面談、必要に応じて進路指導部による面談を行うなど、生徒との面談を充実する必要がある。（人権が尊重される人間関係づくり）

（イ）確かな学力の向上に向けて、公開授業や授業評価などを活用して、分かる授業を実践するとともに、授業のUD化等を進めて、主体的に学ぶ力や協力して学ぶ力などを育成する必要がある。（人権が尊重される学習活動づくり）

（ウ）人権教育の中でも、地域の「同和問題（部落差別）」に対する関心は高い。保育園や幼稚園、小学校、中学校、高等学校が連携した生徒の交流活動や教職員の研修等について、積極的に参加しようとする機運をさらに高める必要がある。

イ 仮説

本校の最大の特徴である進学重視型単位制システムに係る教育活動の根幹に人権教育を据えて充実させることで、将来の自分の姿を真剣に考え、自分を大切にするとともに他者を尊重する意識・意欲・態度が育成されるであろう。

ウ 研究内容

- ・進路実現に向けた「生きる力」を育成するための教育活動や面談方法等の研究
- ・あらゆる人権課題に対しての理解を深め、人権意識の高揚を促す指導方法等の研究
- ・生徒会活動や職員研修を充実させる事によって言語環境を整え、学校全体で人権意識を高める研究

6 研究に係る取組

(1) 人権尊重の精神に立った学校づくり

ア 自分の将来を見据えたカリキュラムづくり

本校は平成24年度に開校し令和元年度で8年目を迎える。進学重視型単位制の魅力は自分の進路希望に合わせて、必要な科目を選択できることである。令和元年度からは、95の科目設定により、生徒の興味や進路希望により幅広い科目選択が可能である。

生徒の持つ個性や能力に応じて、それらを最大限に生かし、伸ばす指導を個別に行いながら、多様な入試に対応することで生徒の夢が実現されている。

イ 面談の充実

本校は単位制高校であり、将来に対する自分自身の思いがカリキュラムに強く反映する。そのため、前年度の科目登録の時点から将来の進路選択を念頭に置いた科目選択をする必要がある。そのため、卒業後のキャリアプランを見通した適切な科目を主体的に選択するよう、面談を充実させている。

(ア) 面談週間（年間3回 4月・8月・2月）

1週間短縮授業とし、担任・副担任で面談を実施する。令和元年度からは、「生徒の自ら学ぶ力の育成」を目標に、一斉自学タイム設けた。面談週間の1日を、面談と同時進行で、年次毎に午後の3時間をラーニングルームで一斉自学を行う。

(イ) 単位制面談（年間2回）

教頭・教務主任・進路指導主事・年次主任・単位制推進委員を中心とした面談であり、卒業後のキャリアプランを見通した適切な科目を主体的に選択するよう、担任・副担任以外の教員がアドバイスを行う。担任や年次から面談要請があった生徒が対象となるが、全体の4割ほど、各年次に40～50名程度である。

以上のように面談を充実することで、生徒理解に努めるとともに、就職や進学の見学指導につながるよう、全職員で行う。

(2) 人権が尊重される学習活動づくり

ア 公開授業（年間2回）

平成30年度は6月と、11月（オープンスクール・「清流の日」）に行った。特に、「清流の日」は日曜日に開催したので、保護者、近隣の学校関係者、中学生など多数来校された。授業を公開することで、地域との連携を深めると共に、教員の指導力向上を目的としている。また、来校された方々のアンケートや意見をもとに、さらなる地域に開かれた学校を目指している。令和元年度は1回目を6月に実施した。終日、全授業の公開を行い、来校者にアンケートを記入していただいた。

イ 授業改善に向けた職員研修・授業研修

(ア) お気軽授業参観週間

人権教育アンケートの結果、現在の自分の学力について十分でないと答えた生徒が多くいたので、平成30年度は授業参観週間に授業評価表の交換を行った。教員が3～4名のグループをつくり、自分の教科外の授業を見学した。授業の中での気づきなどを担当教員に渡し、授業改善へとつなげる取組である。令和元年度はグループ毎に授業の工夫点や改善点などを協議し、シートにまとめた。

(イ) 授業研修

教務部・高大接続改革プロジェクトと連携し、職員研修を行った。平成30年度は、「生徒に身に付けさせたい力」をグループワークで検討し、それぞれの教員が目標を立て、目標に基づいた授業を行った。また、人権教育研修において、「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を授業の中に位置付け、全職員の共通理解を図った。

令和元年度は、「主体的に学び、対話で深める～1 step 1 up～の取組」という授業改善テーマに基づき、職員研修で「生徒に身に付けさせたい力」の新たな目標を立てた。平成30年度の人権教育権研修を踏まえ、前期は6月の授業研修週間（教科内授業見学）で①生徒にとっての「1 STEP 1UP」学びに向かう力②教師にとっての「1 STEP 1UP」思考力・判断力・表現力の育成を目標に、授業づくりを行った。授業者へのメッセージカードを記入し、翌週の教科会で授業の振り返り会を行った。

後期は、「主体的に学び、対話で深める」授業づくりの実践を目指している。「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の視点に基づいた学習指導案を全教員が作成し、研究授業を行っている。



【お気軽授業参観週間】



【令和元年度 生徒に身に付けさせたい力】

ウ オープンスクール（「清流の日」）

平成30年度は『みんなの夢を授業で叶える』～「主体的に学び、対話で深める」授業の実践と公開～をテーマに掲げて実施した。午前中2時間を公開授業とし、その後、産業能率大学の小林昭文先生に講演をしていただいた。さらに、「地域・生徒とともに作る清流高校の授業」をテーマにパネルディスカッションを実施した。小林先生をはじめ、本校の生徒代表、職員代表、保護者代表、地域代表として肥薩おれんじ鉄道の社長に参加していただいた。コーディネーターは県立教育センター主幹にいただいた。

基調講演やパネルディスカッションを通して、生徒や地域の方々、専門家の方々と八代清流高校の授業の在り方について考える良い機会となった。また、生徒の夢を実現する学校であるために、参加者全員で「求められる力」や「生徒や保護者が求める授業」などについて共有することができた。



【平成30年度「清流の日」講演会】



【パネルディスカッション】

令和元年度は、「自らの想いを表現する」をテーマに掲げ、体育科が実施する実技（ダンス）授業と各教科における教育活動をつなげ、教科横断的な授業での学びを校内ダンス発表会で表現する事に取り組んだ。創作ダンスは、自分の思い、伝えたい心情、感情、様々な人間の感性を身体活動で表現する。ダンスの授業で創作した作品を発表の場につなげることにより、発表者・鑑賞者がお互いの気持ちを尊重し合うなどの社会性を育成することを目的としている。10月に八代ハーモニーホールでダンス発表会を実施した。当日は本校の保護者だけでなく、近隣の中学生も招き、生徒の想いを表現した。



【令和元年度「清流の日」創作ダンス社会】



【創作ダンス国語】

創作ダンス 2年次男女

作品名 ～サブテーマ～	教科名	人権教育を通じて育てたい資質・能力 （[第三次とりまとめ] から）
『絆』 ～時代を超えて築ける絆～	国語	カ・ソ・ツ
『繋ぐ数』 ～近似値は無限大～	数学	ケ・ス・チ
『サークルオブライフ』 ～私たちは自然によって生かされていた～	理科	カ・テ・ユ
『神々の宿命』 ～対比する運命が巡り会った結末～	国語	セ・カ・テ
『時代の移り変わり』 ～平成から令和へ～	社会	ア・カ・チ
『女の強さ』 ～巡る季節と恋心～	国語	カ・キ・タ
『アオハル』 ～輝く私たち～	国語・英語	カ・ク・セ
『学生達の奇妙な冒険』 ～ファラオの気まぐれ～	社会	ケ・テ・ト
『人形の呪い』 ～二人の愛の結末は～	国語	カ・ソ・ツ

（P15を参照）

エ 総合的な探究の時間（プロメプラン）

本校の総合的な探究の時間を「プロメプラン」と名付け、3年間を通して実践している。1年次は「プロメ・リサーチ」、2年次は「プロメ・ゼミ」、3年次は「プロメ・サクセス」である。「プロメ」とはギリシア神話に登場する神プロメテウスの名から取っている。特に2年次のプロメ・ゼミでは、少人数のゼミナール形式で

探求活動を行っている。1人の教員が5～6名の生徒を担当する。生徒は、興味・関心のある内容や自分の進路に関わるテーマを自ら設定、課題研究し、論文を書き上げる。

教員と生徒がともに学び合う過程から、自ら考え主体的に判断し、客観的に物事を見つめ、よりよく問題を解決する能力などの「生きる力」の育成を図っている。このプロメ・ゼミで研究した内容をAO入試や推薦入試などに活かし、希望する大学に合格をした生徒もいる。

それぞれのゼミで金賞を取った生徒は、校内で午前中に発表を行う。さらに、代表生徒（平成30年度8名）は、午後から八代ハーモニーホールで発表を行う。当日は、大学の先生方に審査員をしていただく。平成30年度は、「元号を予想しよう」という研究が最優秀賞に選ばれた。元号について、情報を収集・整理した上で、条件を精査して元号案を提示した。

オ 人権教育LHR

年次毎にクラスや学年を通して様々な人権問題について学び、考える。下の表は令和元年度の人権教育LHR計画である。1年次の「ハンセン病に学ぶ」、「水俣病に学ぶ」は、年次集会の形でDVDを視聴し、意見や感想文をまとめた。2年次の「身近な差別」は、令和元年度はスマートフォンのSNSを題材に学習を行った。生徒同士のやりとりの中で、他者を尊重し、傷つけずに自分の思いを伝えるやりとりを、グループで考え、ロールプレイングで実演した。

年次	月／日	主題	内容（留意事項）
1年	5/30	ハンセン病に学ぶ	ハンセン病回復者等に対する不当な差別について学び、誤った知識や偏見がもたらす基本的人権の侵害について考えるとともに、課題解決に向けた行動がとれるよう促す。
	11/14	水俣病に学ぶ	水俣病について正しく学ぶとともに、水俣病の歴史をとおして、現在に至ってもなお解決していない現状を考察し課題にも取り組む態度を育成する。
	1/30	LGBTについて	LGBTについて学び、理解を深めるとともに、多様性を認め、他者を尊重する心を育む。
2年	6/20	身近な差別	身の回りの不合理を実際の街の状況で確認し、日常のあらゆる場面で人権が深く関わっていることを理解し、人権を尊重する態度を育成する。
	12/5	部落差別の歴史①	身分による差別がどのような過程で形成されたかについて学び、差別の構造的な問題が単に為政者に起因するものではないことを理解する。
	1/16	部落差別の歴史②	解放令以後も部落差別がなくならなかったことを理解し、解放運動をはじめ、同和問題（部落差別）の解決に向けた取組の意義について考える。
3年	7/4	就職・進学差別と進路保障	就職・進学差別と進路保障の取り組みの現状を認識させ、差別を解消し、自分の課題として取り組む意識を養う。
	8/22	「言わない・書かない・提出しない」の取組	「言わない・書かない・提出しない」の取組の趣旨を理解させ、また実践する意欲と力を培う。 「差別をしない」、「差別をさせない」ことを実践する意欲と力を培う。

	10/10	現代社会における人権問題	世界的に課題となっている人権問題をグローバルな視点から取り上げ、差別を許さない態度や多様性を認めることができる力を培う。
--	-------	--------------	--

カ 授業のUD化

保健部を中心に、授業のUD化に対する取組を推進している。

- (ア) 教室前方の掲示物等は最小限にする。
- (イ) 本時のねらいと流れを可視化する。
- (ウ) チョークはできるだけ白と黄色を使用する。もしくはUDチョークを使用する。
- (エ) ワークシートの書体・フォントについて。長い文章は、ゴシック体（丸ゴシック・遊ゴシックを推奨）を使用する。フォントサイズは12ポイントを使用する。

(3) 人権が尊重される人間関係づくり

ア 人権教育講演会

本校では様々な視点から人権問題を考える機会として、毎年人権教育講演会を実施している。平成30年度は、7月と11月に人権教育講演会を実施した。7月は、「部落問題の見方考え方～物事の本質はプロセスにある～」の演題で講演会を実施した。同和問題解決に向けた法律や、長年にわたる部落差別解消に向けた運動について熱心に講演していただいた。11月は「部落差別と情報モラル」の演題で講演会を実施した。インターネット上における部落差別の実態について、多数の事例を用いて説明していただいた。

生徒達は、部落差別がいまなお身近な問題であるということ、講演会を通じて学んだ。



【平成30年度 第1回人権教育講演会】



【平成30年度 第2回人権教育講演会】

令和元年度は人権教育の大きなテーマとして、「自分を大切にするとともに、他者を尊重する」を掲げている。8月と11月に人権教育講演会を実施した。8月は、「地域の中でともに生きる」の演題で講演会を実施した。幼児・児童・障がい者・高齢者が、違いを認めあいながら共に学び合い、地域の中で育ちあうことの大切さや「共生」について学んだ。11月は「共生社会～みんなちがって、みんないい～」の演題で講演会を実施した。

令和元年度は「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の中で、価値的・態度的側面ク「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」、技能的側面セ「人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能」を重視し講師を選定した。



【令和元年度 第1回人権教育講演会】



【令和元年度 第2回人権教育講演会】

イ 「心のきずなを深める月間」における
「きずなの木」作成

令和元年度を取組として、6月の「こころのきずなを深める月間」に、「自分と他者を大切にしよう。きずなを深めよう。」というテーマで、保健委員と生徒会が中心となって各クラスで「きずなの木」を作成した。1人1枚りんごのカードに、テーマに沿ったメッセージを記入し、広用紙に貼ってクラスに掲示した。6月に実施したことで、クラスの一体感が増した。



ウ 人権標語・作文への取組

1年次「現代社会」の夏休み課題として、様々な人権作品応募に取り組んだ。八代市人権政策課が主催する「八代市人権作品」には標語の部に143名、書道部門に8名（書道部）が応募した。また、熊本県人権センターが主催する「人権啓発に関する4コマ漫画及び4コマ漫画シナリオ」には16名が応募した。さらに、政府拉致問題対策本部が主催する「北朝鮮人権侵害問題啓発週間・作文コンクール2019」に24名が応募した。「現代社会」の授業でも基本的人権の尊重について学習するが、様々な人権作品に取り組むことで、より身近な問題として捉えることができた。

エ 地域との連携

「部落差別をはじめすべての差別をなくす」八代地域児童・生徒実行委員会に、令和元年度は2年次生3名（生徒会等）が参加している。毎年12月に八代市で開催される「人権子ども集会・フェスティバル in やつしろ」に向けて、小・中学生とともに取り組んでいる。令和元年度は12月7日（土）に開催された。

オ 「清流高だより」への掲載

人権教育の取組について、地域や保護者に発信することを目的に、令和元年度から清流高だよりに人権教育推進コーナーを設けた。人権教育LHRや人権教育講演会を紹介し、概要や生徒の感想・意見などを掲載している。

人権教育を推進しています

八代清流高校では、文部科学省・熊本県より平成30年度からの2年間「人権教育研究指定校」の指定を受け、全校あげて人権教育に取り組んでいます。5月には1年次生が「ハンセン病」について学びました。生徒の感想を一部紹介します。



間違った知識や考え方は差別や偏見を生んでしまうと感じた

改めて分かった差別の恐ろしさをこれからしっかり意識して生活したい

差別をなくすために動ける人になりたい



学校説明会のお知らせ

7月26日（金）に学校説明会を行います。中学生のみならず、是非八代清流高校を見てください。ご来校をお待ちしています。

第8代生徒会長 3年次 橋 智海君
（千丁中出身）
第9代生徒会長 2年次 制通 尚也君
（八代中出身）



進路実現へ！ 高大連携出張講座

7月4日（木）午後、九州内外の9つの大学より講師をお招きして、高大連携出張講座が行われました。生徒は9つの分野から希望する講座を2つ選択して受講しました。ロールプレイやパワーポイントでの迫力ある映像、実験などを取り入れた講座は、生徒たちをそれぞれの研究の世界に引き込んで、充実した時間を過ごすことができました。講師の先生からも、「熱心に話を聞いてもらえて楽しかった」とご好評いただきました。



多様性とは？ 第1回人権教育講演会

8月30日（金）午後、やつしろハーモニーホールにて人権教育講演会が行われました。NPO法人「とら太の会」の山下順子様に、地域の中で多様な人たちがともに生きていくをテーマにお話を伺いました。生徒の感想を紹介します。



- ・差別は無知や無関心からくるものだというお話や、知らないから差別するというお話が印象に残りました。
- ・親から愛情を受けて育ってきた子どもたちはみんな同じだから、障がいだからという差別はないんだと思いました。
- ・今日の講演を聞いて、私はまだ障がい者について全く理解できていなかったなと思いました。講演を聞いて、もっと知りたいと思いました。積極的に関わっていくことが大事だなと思いました。

【清流高だより 7月号】

【清流高だより 9月号】

7 成果と課題

本校の取組に合わせて年2回「人権教育アンケート」を実施している。平成30年度は第1回を7月19日、第2回を3月11日（3年次のみ1月）に実施した。令和元年度は第1回を7月25日に実施した。「人権教育アンケート」を主に、「学校評価アンケート」等をもとに考察する。（アンケートの数値は「あると（そう）思う」と「やや（あると）思う」の合計である）

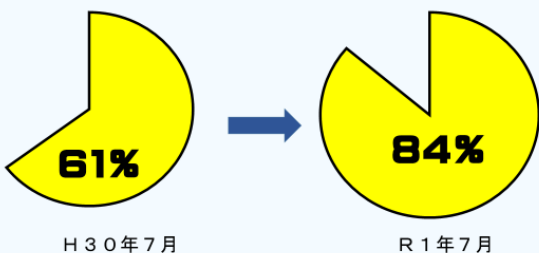
（1）成果

ア 一人一人を尊重した進路指導への取組

本校の最大の特徴とも言える、進学重視型単位制は、生徒の興味や進路希望により幅広い科目選択が可能である。生徒の持つ個性や能力に応じて、それらを最大限に生かし、伸ばす指導を個別に行いながら、多様な入試に対応することで生徒の夢が実現されている。進学重視型単位制の説明は、毎年7月に実施される学校説明会（中学生・保護者対象）で行われており、また各中学校で実施する学校説明会でも説明を行っている。本校に入学する生徒の多くが進学重視型単位制をある程度理解して、入学している。人権教育アンケート【資料1】の結果から、平成30年7月の結果と、令和元年7月を比較すると、23ポイント増加している。また、生徒の進路目標に適するような科目選択ができるよう、様々な面談を実施しているが、【資料2】の結果から、平成30年7月と令和元年7月を比較すると14ポイント増加している。このことから、生徒一人一人に応じた進路指導への取組が行われ、面談が進路意識への向上につながっていると言える。

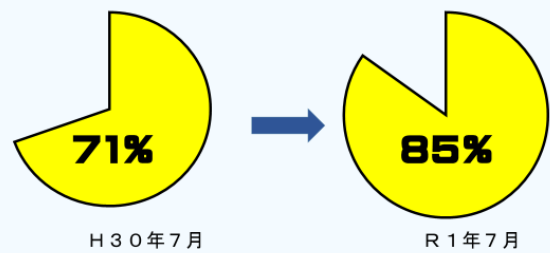
また、【資料3】・【資料4】より、教員と生徒との信頼関係もそれぞれ3ポイント、6ポイントの増加が見られた。

本校の進学重視型単位制のシステムは進路目標達成に有効であるか？



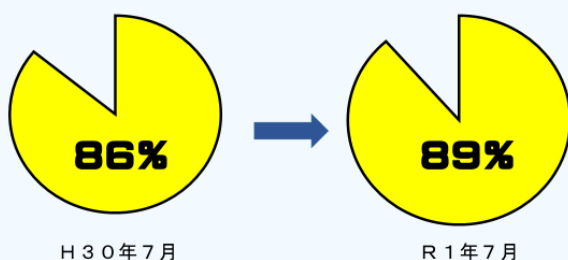
【資料1】

面談を通して自らの進路決定に対する意識が高まっているか？



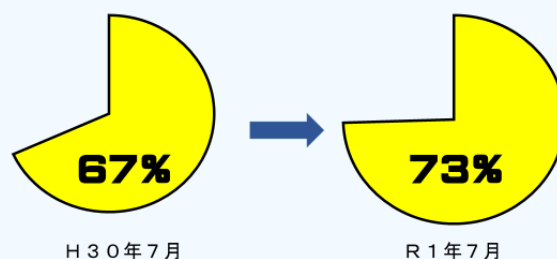
【資料2】

先生は頑張ったことを認めてくれるか？



【資料3】

先生に将来の事を相談したいか？



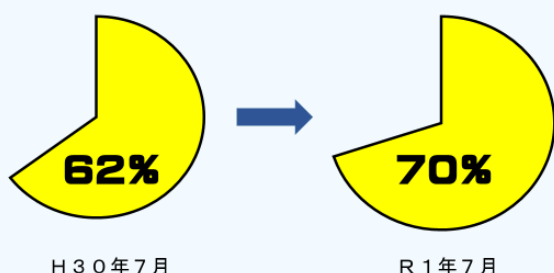
【資料4】

イ 自分を大切にするとともに他者を尊重する意識・意欲・態度の育成

人権教育LHRや人権教育講演会、オープンスクール「清流の日」の取組、「きずなの木」作成、人権標語・作文への取組など、様々な教育活動において、「自分を大切にするとともに他者を尊重する」機会を設けた。

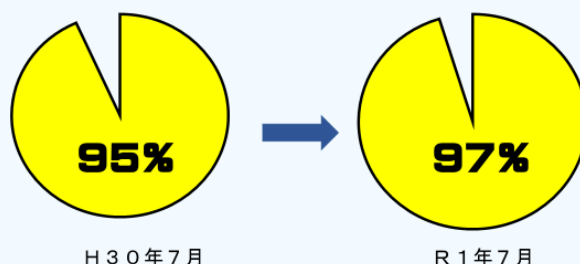
人権教育講演会の感想文や、「きずなの木」のコメント、人権教育アンケートの結果【資料5】・【資料6】から、自己肯定感や他者を尊重する意識・意欲・態度の向上が見られた。特に令和元年度は他者を尊重するという視点や、「共生」「多様性」というテーマをもとに、人権教育講演会を実施した。

自分には良いところがあるか？



【資料5】

困った人の気持ちがわかる人間になりたいか？



【資料6】

ウ 人権教育の取組に対する意識の変化と、人権を尊重する実践力の向上

本校人権教育の目標の一つに、「すべての教育活動で差別を見抜き、差別をなくすための意欲と実践力を持った人間を育成する」とある。様々な人権教育を通して、人権を尊重する意識の向上だけでなく、あらゆる差別に気付き、差別をなくし、自他の人権尊重への行動につなげることが目標である。【資料7】は令和元年度新たに人権教育アンケートに追加した項目である。平成30年度のデータはないが、多くの生徒が他者大切にする意識を持ち、行動している。【資料8】から、他者を思いやって行動することで、喜ばれると答えた生徒のポイントが6%増加している。

また、【資料9】より、本校の授業について人権教育に配慮していると答えた生徒が平成30年度より7ポイント増加した。日常の授業において、教員の人権尊重意識の向上も図られている。【資料10】は学校評価アンケートである。データは、人権教育研究指定校前の平成29年度と、人権教育研究指定校1年目の平成30年度の比較である。平成29年度も高いポイントではあるが、平成30年度はさらに8ポイント上昇し、大多数の生徒が、人権の大切さを学ぶ機会が多いと答えている。

自分を大切にするとともに、他者を大切にしているか？

統計無し

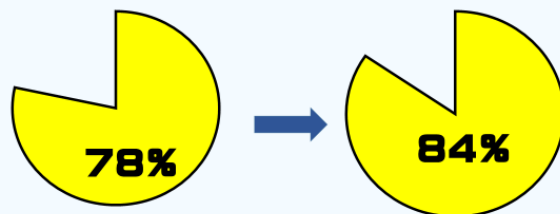


H30年7月

R1年7月

【資料7】

自分が誰かにしていることで、その人に喜ばれることがあるか？

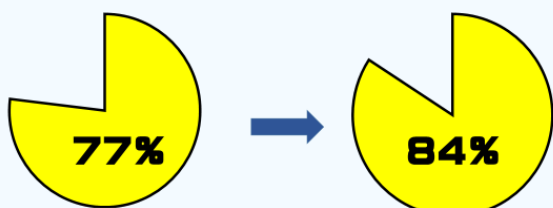


H30年7月

R1年7月

【資料8】

本校は人権教育に配慮した授業が行われているか？

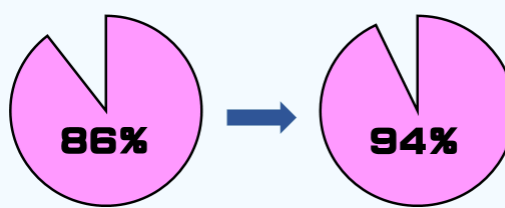


H30年7月

R1年7月

【資料9】

人権の大切さについて学ぶ機会が多いか？

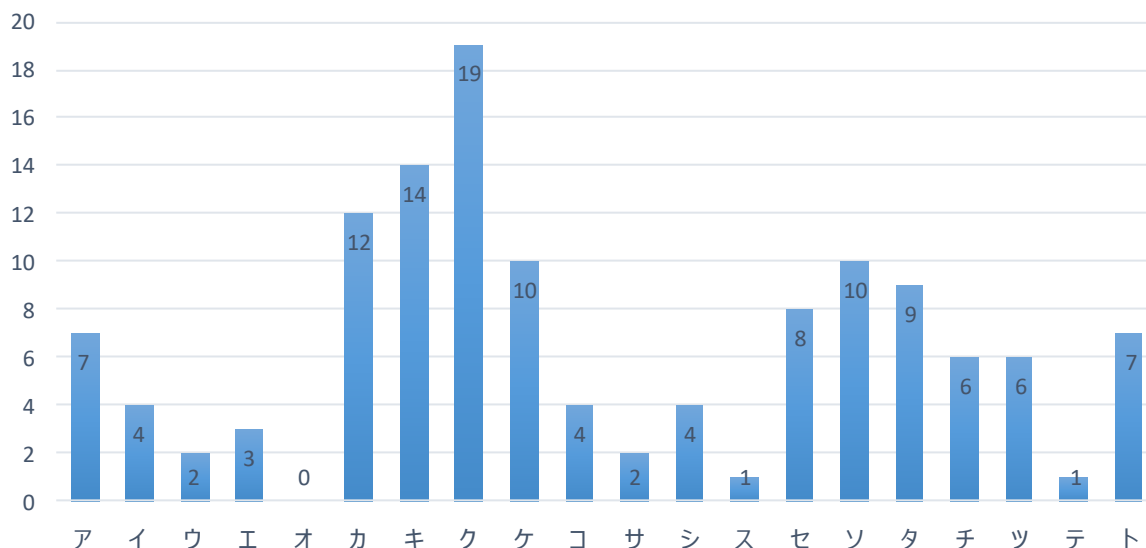


(平成29年度学校評価アンケート) (平成30年度学校評価アンケート)

【資料10】

また、10月に「人権教育を通じて育てたい資質・能力」(教員)に関するアンケートを実施し、日頃の教育活動で特に重視している項目を答えてもらった。(複数回答可) アンケート結果より、「価値的・態度的側面」の「カ・人間の尊厳、自己価値及び他者の価値を感知する感覚」「キ・自己についての肯定的態度」「ク・自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」を特に重視して教育活動や授業を行っている教員の数が多かった。日頃から人権を尊重する視点を持った教育活動を、学校全体で取り組むことができている。(下のグラフを参照)

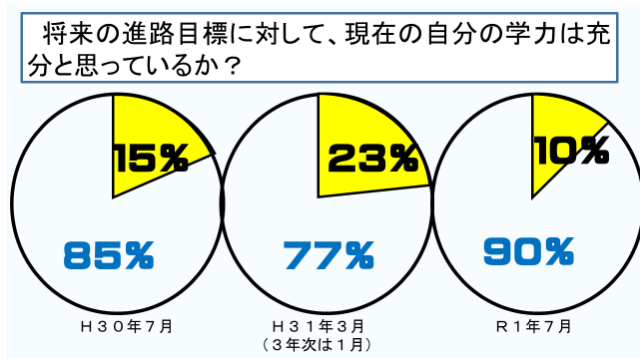
日頃の教育活動で、特に重視している 人権教育を通じて育てたい資質・能力



(2) 課題

ア 「確かな学力の向上」へ向けての継続的取組

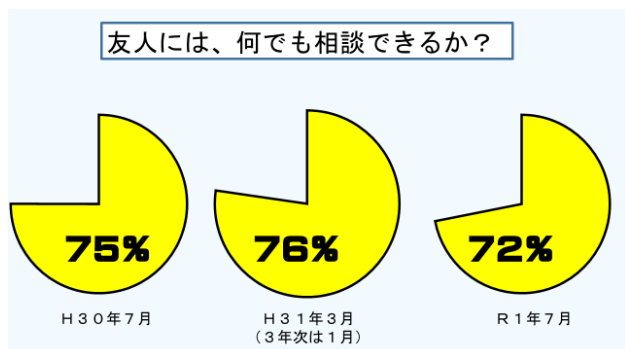
研究主題である「確かな学力の向上と豊かな人権感覚に基づいた進路保障」の中で、「確かな学力の向上」を目指し、教務部、進路指導部、高大接続改革プロジェクトなどと連携し、様々な取組を行っている。しかし、【資料11】より「生徒は将来の進路目標に対して、現在の自分の学力は十分と思っている」ポイントが低い。特に、7月のアンケート実施時点では10%台である。生徒の進路目標に応じ、「確かな学力の向上」に向けての継続的な取組を今後も行う必要がある。



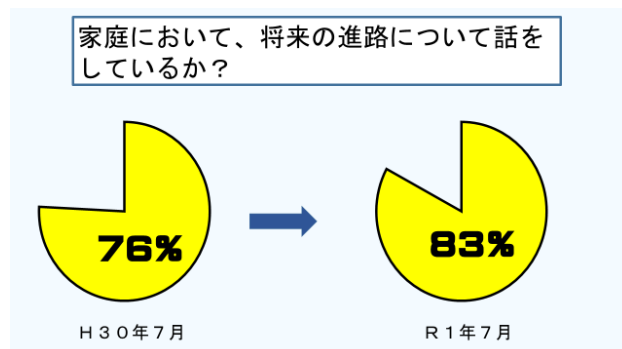
【資料11】

イ 自分の内面を相談するほどの友人関係（信頼関係）

様々な取組や教育活動を通して、生徒達の「自分を大切にし、他者を尊重する」意識・意欲・態度の向上が見られた。【資料6】より、「困った人の気持ちがわかる人間になりたい」思う生徒が97%いることから、他者への思いやりの気持ちは非常に高い。しかし【資料12】より、「友人には、何でも相談できる」と答えた割合に大きな変化は見られなかった。友人を大切にする意識は高いものの、自分の悩みや困り事を伝えられない生徒もいる。お互いに自分の本音を相談し、伝えられるような、生徒同士の信頼関係を築く取組も今後継続的に行う必要がある。



【資料12】



【資料13】

(3) 研究を通して

本校の最大の特徴である、県内初の進学重視型単位制高校の特色を柱に、2年間の人権教育研究を行った。1年目は、自己肯定感を高める事に重点を置き、人権教育アンケート等から、一定の成果を得たと感じた。2年目は、1年目の課題から、「他者を尊重する」という視点を盛り込み、人権教育講演会の講師選定を行った。また、「きずなの木」の取組などを新たに実施した。さらに保護者や地域への情報発信の視点から「清流高だより」に人権教育の取組を掲載することとした。

本校は、素直で心優しい生徒が多いが、様々な人権教育の取組を行うことで、より人権尊重の意識・意欲・態度の向上につながったと思う。しかし、「課題イ」でも述べたように、他者を尊重できるが、自分の思いを十分に表現できない生徒もおり、教師と生徒との信頼関係、友人同士の信頼関係の構築を今後も充実させていかなければならない。

また、学校だけでなく、地域や保護者との連携・協力も重要な課題である。八代市人権政策課主催の「八代市人権作品」への応募や、熊本県人権センター主催の「人権啓発に関する４コマ漫画」等に応募することで、地域と共に人権教育を啓発する学校を目指したい。保護者との連携・協力においては、学校のあらゆる教育活動に保護者の理解と協力が不可欠である。今後も、安心・安全メールなどを利用したり、清流高だよりで保護者への情報を発信したりするなど、保護者との連携を深めたい。地域や保護者から信頼され、生徒一人一人の思いを大切にする学校を目指し、今後も特色ある教育活動を行っていきたい。

知識的側面

- ア 自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解
- イ 人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識
- ウ 憲法や関係する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識
- エ 自尊感情・自己開示・偏見など、人権課題の解決に必要な概念に関する知識
- オ 人権を支援し、擁護するために活動している国内外の機関等についての知識 等

価値的・態度的側面

- カ 人間の尊厳、自己価値及び他者の価値を感知する感覚
- キ 自己についての肯定的態度
- ク 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度
- ケ 多様性に対する開かれた心と肯定的評価
- コ 正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度
- サ 人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度
- シ 人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度
- ス 社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度 等

技能的側面

- セ 人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能
- ソ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性
- タ 能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能
- チ 他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能
- ツ 人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能
- テ 対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能
- ト 複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能 等



全ての関係者の人権が尊重されている教育の場としての学校・学級